

# 山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



## 平成23年辛卯 住職年頭挨拶

### 平成23年 龍源寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/13大般若・大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 5/23 檀信徒研修参拜旅行
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬 第30回子供禪の集い
- 8月上旬 夏季おてんま
- ※8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 孟蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※10/15檀信徒参拜研修旅行
- 12月上旬 冬季おてんま
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・琴教室・華道教室
- ※は、御本寺仁叟寺にて開催

### 謹賀新年

とうと

「神佛を崇びて神佛に頼らず」(宮本武蔵)



二刀流で有名な江戸時代の剣豪・宮本武蔵の言葉です。宮本武蔵は、剣術もさる事ながら著書や絵画等の作品も数多く遺しております。この言葉は、氏の著作『五輪書』にあります。

さて、現在に生きる我々は、いささか逆の事をしているように思えます。普段は墓参もせず、仏壇に手を合わせる事もない方が、困難な場面に直面すると、その時だけ神仏にお祈りをする。昨今、流行になっておりますパワースポットや占い等に代表されますが、祈る事、その事自体は勿論尊い行為でございます。しかし、そこに「御利益の為」という思いが、強く入ってしまうと、如何なものかとも感じます。

困った時だけではなく、普段の生活の中で神仏を尊び敬い、イザとなった際には自身の力で解決をしようと試みる。何気ない日常の中、精進する事によって心の平安が保てるものと思います。

4年間の任期でございました宗務所梅花主事も、昨月を以って完遂する事が出来ました。本年も宜しくお願い致します。

### 平成23年年回表

一周忌	平成二十二年	二十三回忌	昭和六十四年 平成元年
三回忌	平成二十一年	二十七回忌	昭和六十年
七回忌	平成十七年	三十三回忌	昭和五十四年
十三回忌	平成十一年	五十回忌	昭和三十七年
十七回忌	平成七年	百回忌	明治四十五年 大正元年

- ※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
- ※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。  
(※但し、百回忌を除く)

## カヤの木移植報告

御本寺・仁叟寺のカヤの木（群馬県指定天然記念物）の子株を当山に移植いたしました。仁叟寺末寺には、甘楽町・向陽寺様、長野県佐久市望月・信永院様始め境内に大きなカヤの木があり、いずれも仁叟寺のカヤの木の子株と伺っております。当山でも是非植樹いたしたく思っております。

昨年春の役員会の席上、ご提案申し上げたところ、満場一致で諒解を得る事が出来ました。以来、植える場所を考えておりましたが、この度、当山境内地の諸石仏が祀られている所が最適と判断し、その整備を行いました。樹齢50年程の銀杏の木があった為、齋藤桐材店様に依頼して伐採。のち、昨年12月8日成道会に、柿田緑化様に依頼し、無事カヤの木を移植が行えました。

早く実を付けるまで生長し、当山の象徴的な大樹になることを祈念しております。



↑ 移植されたカヤの木  
↓ 伐採された銀杏



えいさんかほうえい

## 第一回吉井地域詠讚歌奉詠大会開催



↑（左）龍源寺講仁叟寺講合同奉詠風景 （右）全林寺講・恩行寺講の皆様方

昨年11月22日に第一回目となります「吉井地域詠讚歌奉詠大会」が、仁叟寺にて開催されました。参加者は各講より50名の講員様が集まりました。御詠歌の講がある吉井地域のご寺院様は、龍源寺・仁叟寺・全林寺（以上、曹洞宗）・恩行寺（天台宗）の4ヶ寺です。宗派を超え、同行の皆様が詠讚歌を相互に奉詠し披露する大会であり、参加された方々より、是非続けて欲しいとの声も上がりました。恩行寺講では舞の披露もあり、参加された皆様にとりまして有意義な大会であった事と思えます。

## 祝寿 28世住職老師御夫妻米壽 29世住職老師御夫妻還暦

当山28世住職の渡辺隆司東堂老師が、昨年12月27日を以ちまして、数えて米壽（88歳）となりました。奥様のテル様も今年3月10日に揃って米壽を迎えられます。御蔭様で、御夫妻共に健康であり趣味の園芸や書道など精力的に活動もされております。当山29世で仁叟寺住職の渡辺啓司老師と恵津子様ご夫妻も昨

→  
二十八世老師御夫妻



## 仁叟寺通信-31- 「棕の木枝打ちが新聞で紹介」

9月20日付の上毛新聞の記事を以下、紹介いたします。

「高崎・吉井の市天然記念物 ムクノキ すっきり「空師」の中沢さん 地上20<sup>㍎</sup>で枝打ち 仁叟寺」

高崎市吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)で18日、境内にある巨木の枝打ち作業が行われた。高所での作業を専門とする「空師」が地上20<sup>㍎</sup>で枝を次々に切り落とした。

枝打ちされたのは、本堂裏にある市指定天然記念物のムクノキ(樹齢約350年、高さ約28<sup>㍎</sup>、根回り約7<sup>㍎</sup>)。枯れた枝が落下する危険性がある事や枯れて折れた箇所から菌が入る事で樹勢が弱まる事を防ぐ為に初めて行われた。高崎市倉賀野町の空師、中沢重雄さん(59)が7月に同寺にある県指定天然記念物のカヤの折れた枝を取り除いたのを縁に渡辺住職が作業を依頼した。

中沢さんは木に長い梯子をかけ、竹竿を使って枝に引っかけたロープを頼りに登った。高い木の上でもロープを使って巧みに移動しながら、枯れ枝十数本をチェーンソー等で次々と切り払った。渡辺住職によると、このムクノキを柄の部分に使ったとされる長刀が同寺に残る。明治維新时期にあった暴動の際に当時の住職が寺を襲おうとした暴徒を一喝した時に携えていたという記録があり、こうした由緒ある木の為に切り落とされた枝は念珠に加工して活用するという。



↑ 新聞記事 (9/20)

↑ 息を飲む作業風景

## 龍源寺主催本山参拜研修旅行 -参加者募集中-

毎年恒例の秋の研修旅行は、御本寺仁叟寺様との共催でございます。この度、当山主催の研修旅行としては実に30年振りとなります。昨年に役員会で諒を頂き、当山主催本山研修旅行を企画致しました。多数の方々が参加し易いよう、下記の通り、日帰りの旅程を組みました。

本年、平成23年は、大本山總持寺様が石川県能登より横浜市鶴見へと御移転を果たしてから丁度100年となる

区切りの年でございます。大本山様でも多くの記念行事を予定しております。また、大本山總持寺様は福井県の大本山永平寺様と同じ曹洞宗の大本山であり、住職始め師匠である先代、先々代も安居修行を勤めた道場でございます。また先代住職は總持寺の請客として役寮を勤めておりました。(役寮とは、修行僧の指導役の意。請客とは禅師様にお仕えする役。)住職も2年間修行をいたしました。本年が修行を終えて帰山してから丁度10年となりました。法縁深い鶴見の御本山様への参拜研修旅行、難値難遇の機会でございます。檀信徒はもとより、ご家族ご友人お誘い合わせの上、ご参加して下さることをご提案いたします。なお、参加申し込みは、当山までご一報下さい。

### ↓ 三溪園



↑ 大本山總持寺大祖堂

**日程**・平成23年5月23日(月)日帰参拜研修旅行  
**旅程**・龍源寺＝大本山總持寺(諸堂拜観・先祖供養・精進料理の昼食等)＝三溪園(富岡製糸場支配人の庭園。現在は公園で、日本を代表する庭園)＝中華街(言わずと知れた観光名所。買い物等お楽しみ下さい)＝龍源寺  
**費用**・9,000円(バス・高速・保険・拜観・昼食・法要恩金等含む)

## 錦秋の研修旅行 寄稿 仁叟寺総代長 井上正俊氏

恒例の研修旅行が、菊華薫る昨年11月3日文化の日に、大雄山最乗寺道了尊首都圏出開帳記念法要に併せて東京両国国技館で実施されました。

仁叟寺龍源寺の研修参拝旅行の初回に、大本山總持寺と大雄山最乗寺を訪れました。その小田原の仁叟寺の大本寺様である古刹の大雄山最乗寺様の道了尊様が、80年振りとなる首都圏出開帳の大法要でございました。

両国国技館到着時丁度に、御籠に乗られた道了尊様の御入館の列を拝見いたしました。僧侶二百名ほどの列に小田原の最乗寺護持会等関係者が多数加わり、厳ぞかな入館でした。

館内は、各地各寺から参加された檀信徒等で超満員でした。昼食を早めに摂り、御開帳を待ちました。午後一時、荘厳の内に式が始まりました。あれほど賑やかであった館内が静寂に包まれ、正に厳肅そのものの儀式でした。

式典終了後に、大雄山石附周行山主老師様のご法話を拝聴。力強く述べられていたのが、恒久平和でありました。強い印象を参詣者全員に与えたも



↑ 仁叟寺総代長  
筆者 井上正俊氏



↑ 道了様出開帳祭壇  
(於、東京・両国国技館)

のと思います。次いで人心について話され、和みのある社会を築くことの大切さを強調されておりました。感銘の深いご法話を頂きました。

これより先、浅草寺にお参りいたしました。まだ時間が早かった為か、仲見世等も準備中の所もありましたが、外国の観光旅行団の姿が目につきました。地元の小学校の児童の菊、新潟県村上市からの二千株という花の数がある懸崖等に心癒されました。また、497メートル(当時)の東京スカイツリーを眺めながら、盛り沢山の研修旅行を楽しみました。

なお、参加者は84名でした。有り難うございました。

## 行雲流水 (編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

新年、明けましておめでとうございます。

龍源寺報「山雲水月」も、今号平成23年新春号をもちまして第31号となりました。平成14年の創刊から、早いもので今年で10年目となります。

私儀、新聞記者を短いながらも勤めまして、その経験を活かす事が出来れば、といった思いで続けて参りました。写真やイラスト等を多用し、見易い紙面作りを心掛けております。ほか、同寺報に関する事がございましたら、是非住職までご連絡ご提案をお願い申し上げます。

また、拙僧の曹洞宗群馬県宗務所勤務(梅花主事)も昨年末をもちまして四年間の任期

を無事終える事が出来ました。お世話になりました関係各位に、改めまして厚く御礼申し上げます。週三日の通常執務の他、行事等が多く、お寺を空ける事が多々ございました。快く?執務に行事にと送り出して下さいました家族に、また檀信徒の皆様方に感謝申し上げます。

合掌(龍)

→恒例の特老施設物故者法要で挨拶する住職

